令和5年度　学校評価表

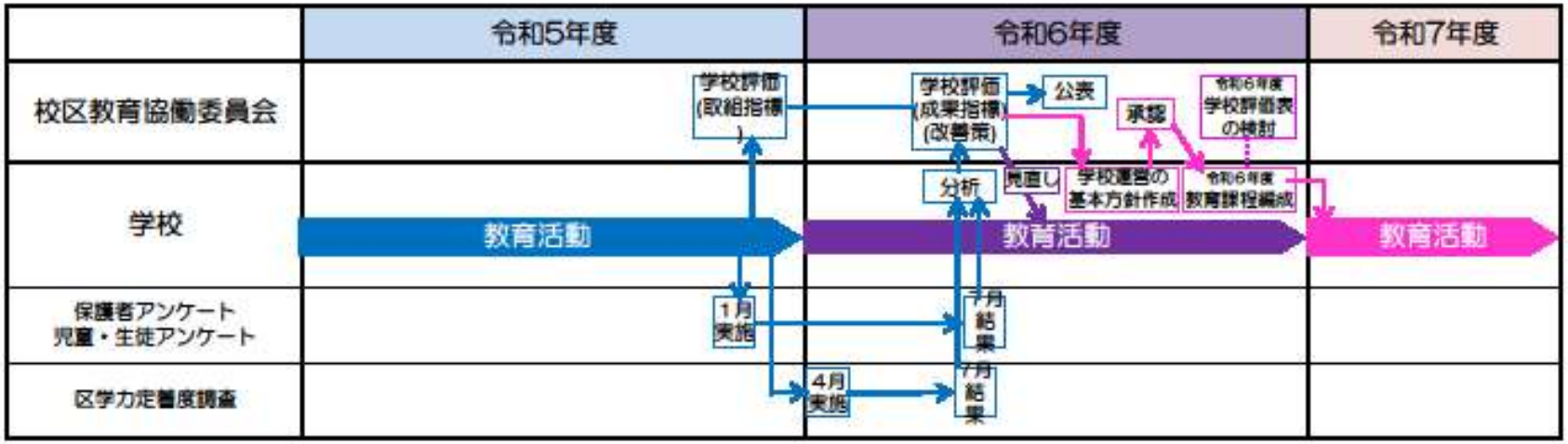
品川区立荏原第六中学校	校長	伊藤	憲造
荏原第六中学校校区教育協働委員会	委員長	油布	佐和子

校区教育協働委員会は、品川区校区教育協働委員会設置要綱（改正　令和４年３月２４日 教育長決定 要綱第５号）に基づき、次に掲げる事項について、学校評価を行っています。

(1) 学力に関すること。
(2) 人間性や社会性に関すること。
(3) 体力・健康に関すること。
(4) いじめ防止の取組に関すること。
(5) 特色ある教育活動に関すること。

学校評価を行う際、評価項目ごとに「成果指標」と「取組指標」を設定し、取組状況と取組によって表れた成果について把握しています。学校評価により浮き彫りになった学校の課題を委員会で共有し、改善策を考えました。
学校評価の結果を公表するとともに、今年度の取組の見直しや来年度の教育課程の編成に生かしていきます。

学校評価の流れ（※令和５年度の学校評価が令和６年度および令和７年度の教育活動につながる部分のみ表記しています。）



令和５年度　学校評価　品川区立荏原第六中学校

評価項目１　学力に関すること

重点目標	品川区立学校教育要領に基づき、各教科の年間指導計画を進める。 1. 基礎・基本的事項への指導 学習規律を身に付けさせ、分からせる授業を進め基礎学力の定着を図る。 2. 発展的な事項への指導 言語活動の充実や思考力・表現力・コミュニケーション能力の育成を図り、発展的な内容まで指導を行う。 3. 授業力・指導力の向上 品川区立学校教育要領を見通し、教材・教具（iPadなど）を活用した指導を行う。

評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	区の学力定着度調査の3教科の平均正答率を70%以上を目指す。また、社会・理科は区の平均点を上回る。	成果指標が達成できたのは、7年生は国語・理科、8年生は国語・理科・社会、9年生は国語・社会であった。	B	区の学力調査の結果、各学年と2～3教科しか目標に達しておらず、既習事項の繰り返し学習を行いながら、定着を図る。 学期はじめに、授業規律について話をしている。生徒たちは授業に集中して取り組んでいる。教員は、意見交換が行われるための工夫やiPadを活用して、説明の簡略化や、スモールステップの設定など、指導方法を工夫している。学力向上に向け今後も単元の終わりや学期末に復習を行うことで、基礎的・基本的事項の定着を図る。
	学習規律を守らせ意見交換が活発になされ、基礎基本の定着を図る。	生徒たちは、学習規律を守り、今は何をするときか判断して主体的に授業に取り組んでいる。	A	
	既習事項を繰り返し学習することで、基礎的・基本的事項の定着を図る。	既習事項を復習することで、知識の定着や技能が身に付けようとしているが、学力定着調査の結果につながっていない。	B	
	指導形態、教材、板書の工夫、iPadの活用など授業改善を図り、一人一人の個別最適化に取り組む。	教材やiPadの活用により授業中に内容をさらに深めた学びができている。iPadで活用することで、生徒同士の話し合い活動が多くなっている。	A	
②	学年の発達段階に合わせて、宿題や自習学習などの課題を与え、家庭学習の習慣を付けさせる。	ほとんどの生徒は授業の宿題や自学ノートを活用して家庭学習の習慣が付いている。しかし、家庭習慣が身についていない生徒が各学年とも1割程いる。	A	ほとんどの生徒は家庭学習の習慣が身に付いている。各教科の宿題や自学ノートを活用することで、生徒たちの学力も向上している。家庭学習の習慣が身に付いていない生徒に対しては、家庭と連携をして対応していく。 放課後の品川未来塾（自習学習）では、定期考査前の参加は毎回20名を超えているが、生徒の要望に応じ、品川未来塾のあり方も再検討していく。
	自学ノートを活用して、家庭学習の習慣を身に付けさせる。	毎日の自学ノートの提出が習慣付けられている。定期テスト前にはワークを課題としている。	A	
	生徒の定着状況に応じて、個々の教員が長期休業中や放課後に補習を行ったり、生徒が自主的に品川未来塾を活用させる。	定期考査前の放課後の品川未来塾（自習学習）には多くの生徒が参加している。長期休業中の補習の参加の希望者も各講座10名程いた。	B	

A＝十分達成できた　B＝おおむね達成できた　C＝未達成

令和5年度　学校評価　品川区立荏原第六中学校

評価項目２　人間性や社会性に関すること

重点目標	連携グループ校で目指す児童・生徒像を共有して市民科の学習や生活指導にあたる。 1. 小中で確認した学習規律・生活規律をもとに確かな学習指導と生活指導を進める。 2. 特に前期1年～4年では「自己管理」「人間関係」を、 中・後期5～9年では「自治的活動」「人間関係」「企画・表現」の能力の伸長を重点とする。 3. 市民科一貫プランでは、社会に主体的にかかわり、自らの生き方を確立しようとする児童・生徒を育成する。			
評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	生徒全員がしっかり挨拶ができる。マナーやルール等の規範意識の醸成を図る。	通りがかりの挨拶やルールを守ることができている。ほとんどの生徒は定着しているので、継続をしていく。	A	生徒たちは、落ち着いた学校生活を送っている。生徒会役員や各種委員会があいさつ活動、チャイム着席、ロッカーの整理整頓、清掃活動、読書習慣などの向上を図る。自分たちが考え作り出した決まりを生徒が主体的に守っていこうとする姿勢をつくっていきたい。一貫プランでは、マナー講座や茶道を通してマナーや社会性が身に付いている。今後も主体的に考え行動していこうとする姿勢を生徒会と中心に継続させる。
	校則を見直し、生徒が主体的に考え、場にじた行動を自ら実行していく。	自分たちがつくった決まりを自分たちで守っていこうとする自主・自立の行動ができつつある。	A	
	一貫プランでは、社会に主体的にかかわり、自らの生き方を確立しようとする生徒を育成する。	8年生のマナー講座、一貫プランの全学年の茶道体験を実施することができた。礼儀やマナーを学ぶことで、社会との係わりを育んでいる。	A	
②	市民科授業を計画的に実施するとともに、市民科への理解を進める。	3年間を見通して、計画的に実施している。市民科授業地区公開講座は、保護者や地域の参加者が少なかった。	B	市民科授業では、「自治的活動」「人間関係」「企画・表現」の能力の伸長を重点として進まてきた。自治活動では、宿泊行事や校外学習での取り組みができた。人間関係では、他者とのより良い関係づくりを目的に授業を行った。企画・表現では、運動会や学習成果発表会での練習を通して学んだ。 地域の祭りのボランティアの参加も、主催者が与えられた企画に参加するだけでなく、主体的に企画を企画を考え参加させたい。
	市民科授業を計画的に実施するとともに、充実を図っていく。	本校では行事的な内容に実施されることは少なく、ほぼ計画どおりに実施されている。	A	
	ワークシート（授業の振り返り等）を活用して生徒の習得状況を把握する。	学校や学年の行事に応じて、事前学習、当日、当日の振り返り、事後学習の手順で計画的に実施できた。	A	
③	地域から学ぶ、生き方を学ぶ、学びを深めるをテーマとした授業の開発を行う。	7年生では六中寺子屋、8年先生は職場体験などの体験学習を通し、仕事の大変さと責任について身をもって体験することができた。	B	8年生は今年度も地域の協力を得て職場体験を実施することができた。生徒たちは、事前学習、当日、事後学習を通して、仕事の大切さを学べた。7年生の六中寺子屋や9年生の面接練習では、自己評価も含めてキャリヤ形成の見通しがもてた。
	キャリア・パスポートを活用して、生徒自身の学習状況の自己評価やキャリア形成の見通しをもたせる。	7年生ではCAPS、8年生はファイナンスパーク、9年生は面接練習を通して、キャリア教育を行った。将来のことについて考える機会となった。	B	

A＝十分達成できた　B＝おおむね達成できた　C＝未達成

令和5年度　学校評価　品川区立荏原第六中学校

評価項目３　体力・健康に関すること

重点目標		小中学校が連携し、生涯に渡って、運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに体力の向上を図る。 「心身ともにたくましい子」を育てる。 1. 体力の向上を図るとともに、部活動などに積極的に取り組ませる。 2 ブラインドサッカーの応援校としての経験を生かして、ボランティアマインを実践させ、オリンピック精神を継承していく。		
評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	東京都統一体力テストの「体力・運動能力」の項目すべてで、都の平均値を上回る。	都の平均値より上回っているものの、全学年の男女ともシャトルランに課題があり持久力に課題がある。	B	昨年度の体力テストでは持久力と柔軟性が低いことが課題であったが、授業前のランニングや計画的に柔軟体操を取り入れることで、改善された。今回は20mシャトルランに課題があった。持久力や柔軟性についての活動は継続しつつ、瞬発力を高める運動を計画的に取り入れていく。部活動においては、年度途中で退部する生徒もいるので、再入部や兼部を促していく。
	体育の授業では持久走や柔軟性を計画的に取り組む。体育の授業の最初にランニングやストレッチングを行う。	持久走では授業前にランニングを実施している。柔軟性に関しては単元によって実施している。	B	
	運動習慣を身に付けるため、7割以上の生徒が運動系の部活動などに参加する。	部活動に参加している生徒は約9割で、運動部に参加している生徒は約6割になった。運動系の部活動が少ないことも起因している。	B	
②	健康教育に取組み、基本的な生活習慣の定着を図る。	ほとんどの生徒は基本的な生活習慣が身についている。気になる生徒は家庭と連携を取って協力を求めていく。	B	毎朝の教室での目視観察を通して、生徒の見守りを行っている。保健だよりでは検診の内容や準備することを連絡している。保健委員会では、教室環境として加湿器の管理、窓の開け閉め、手洗い・うがいの呼びかけ、給食の配膳指示などを行っている。また、外部人材を活用して、薬物についての薬育、がん教育について学ぶことができた。次年度にも、健康教育の取組を継続していく。
	保健指導や食育の指導を通して心身の成長や健康の保持・増進に努める。	検診前の保健だより、給食委員会の取り組み、保健体育の授業（保健分野）で、生徒たちへの健康の保持増進のための指導を行っている。	B	
	外部人材を招いて、「薬育」「がん教育」などを行い、自己管理能力を高まる。	警察官によるセーフティ教室（薬育）、大学教授のがん教育に関する授業を行い、健康に関する自己管理能力への意識が高まった。	B	
③	パラリンピック応援校としての経験を生かして、スポーツに対する興味関心を高める。	今年度は、メダリストによる授業として、柔道選手を招いて体育の授業を行った。生徒たちは、オリンピック・パラリンピック競技に興味を持った。	B	今年度、ブラインドサッカーの選手、柔道のメダリストを招いて授業を行った。オリンピック、パラリンピックについて学び、スポーツに対する興味関心が高まった。ブラインドサッカー体験を充実していたが、ボランティアマインドを高める工夫が必要であった。
	ブラインドサッカー体験を実施し、オリンピック精神について考えさせる。	ブラインドサッカー体験を通して、パラリンピック競技の理解が深まった。また、ボランティアの仕方などを知ることができた。	B	

A＝十分達成できた　B＝おおむね達成できた　C＝未達成

令和5年度　学校評価　品川区立荏原第六中学校

評価項目４　いじめの防止の取組に関すること

重点目標		いじめはどの生徒にも、どの学校でも起こり得るという認識の下、保護者、地域住民および関係機関等と日頃より連携を図り、いじめの未然防止、早期発見、早期対応を基本として、全教職員が一丸となって取り組む。 1. いじめの兆候をいち早く把握し、迅速に対応する。(いじめをゼロにするのではなく、対応・指導を大切にする) 2. 問題を隠さず、教育委員会、関係諸機関、家庭、地域と連携して対処する。 3. 人権教育を推進し、問題の未然防止に努める。		
評価指標	最上段:成果指標 2段目以降:取組指標	最上段:成果指標の達成状況の説明 2段目以降:取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	いじめの防止に努め、早期発見、早期対応を行う。	保護者からの訴えでいじめが発覚した。校内体制で対応して、早期に解決することができた。	A	いじめが発覚したときに、校内で対応する体制が構築できた。来年度はデイケンやDアンケートを活用、日常の様子を観察して生徒の見守りを継続していく。また、スクールカウンセラーと情報を共有し、きま細かな対応を行う。生徒会主体で、「いじめ根絶宣言」「SNS六中宣言」を行っている。今後も、よりいじめ防止の取り組みを進めるために、市民科でいじめ防止を扱った授業を行う計画的に実施していく。
	毎日の生徒アンケートや、日常の観察によっていじめの早期発見に努める。	毎日のアンケートや日常の観察、スクールカウンセラーとの連携により、いじめの早期発見に務めている。	A	
	「いじめ根絶宣言」や「六中宣言」を常に意識させ、いじめのない学校を作る。	生徒たちには、生徒会朝礼で「いじめ根絶宣言」や「SNS六中宣言」を唱和させ、いじめは良くないと意識させている。	A	
②	人権教育については、全教育活動において推進する。	研修会を通して、教職員は人権意識を高めている。生徒たちも、校長講話や市民科授業を通して人権意識を高めている。	A	今年度は、臨床心理士、心理療法士をお招きして、校内研修会を行った。教職員の人権意識が高まり、学級経営や学年経営等に役立てた。生徒たちは、7年生で人権作文、9月には全校で人権標語を作成することで、人権意識が高まっている。また、障害者理解にもつながった。しかし、ボランティアマインドの育成まではいたらなかった。生徒が主体的に取り組めるための方法を検討する。
	人権の標語やポスターの作成し、人権尊重の意義について理解させる。	9月には、全校生徒が学年ごとの人権テーマに基づき人権の標語を作成し、人権について考える機会となった。	A	
	障害者理解を深め、ボランティアマインドを育成する。	ブラインドサッカー体験を通して障害者理解を深められた。	B	
③	生活アンケートの「友達と仲良くしている」の項目で「そう思う」「どちらかというとそう思う」と回答する生徒を90%以上にする。	生活アンケートでは90%以上の生徒が友達と仲良くしていると回答した。	A	生徒たちは、大きなトラブルもなく、落ち着いた生活を送っている。アンケートの結果からもその様子が伺われる。市民科学習でも生徒同士の話し合い活動を行うことで、より良い関係が構築してしいる。否定的な回答をした生徒もいるので、その生徒に対しても丁寧に対応をした。
	市民科学習を通して、自己と他者を大切にする意識を育てる。	市民科学習では、アサーショントレーニングや話し合い活動を多く取り入れている。	A	

A＝十分達成できた　B＝おおむね達成できた　C＝未達成

令和5年度　学校評価　品川区立荏原第六中学校

公開

評価項目５　（特色ある教育活動に関すること）

重点目標		連携グループ校で、品川区立学校教育の目標の達成を目指す取り組みを工夫する。 1．学校便りにおいて、校長の経営方針や一貫教育の取り組みを積極的に家庭や地域に発信する。 2．自主・自立の精神をふまえ、豊かな心をもち、たくましく生きる生徒の育成を目指して、教育を推進する。 ①自ら学び、考え挑戦する生徒 ②礼儀正しく、誠実で思いやりのある生徒 ③心身ともに健康で、社会に貢献できる生徒		
評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	生徒とともに歩く、生徒とともに学ぶを教育理念として、特色ある教育活動を行う。	教員は生徒たちの話をよく聞き、適切に指導や助言を行っている。また、保護者への連絡も丁寧に行っている。	A	教員は生徒とともに歩く、生徒とともに学ぶことを意識して教育活動に取り組んでいる。学校行事や学級活動でも生徒の話を多く取り入れようとしている。また、学年だよりや学校だよりで、生徒の活躍を紹介している。今後も、継続していく。
	学校便りやホームページで、保護者や地域の方の理解を得る。	学校だよりやホームページでは、生徒の様子や学校行事を載せている。また、学校だよりは保護者メールで直接保護者に配信している。	A	
②	生徒会活動や学級活動を通して、自主自立の精神を育てる。	生徒会役員会、各種委員会では、どの様な取り組みをすれば、生徒たちが生活しやすくなるかを話し合い、各委員会独自のイベントを実施している。	A	生徒会役員、各種委員会は目的意識を高くもって活動をしている。委員会や委員長会では、各自が積極的に意見を延べ、他の生徒の意見を聞きながら、より良い取り組みを考えている。また、その会議の内容を学級や生徒会朝会で発表することで、全校生徒への取り組みとなっている。また、各自が自分に役割を意識し、責任をもって取り組むことの大切さを伝えていく。
	学年行事や学校行事で、生徒の自治的活動する場面を設定し、達成感を味合わせる。	代表委員会や実行委員会が中心となり、生徒たちの意見を聞きながら、企画運営を行っている。特に、運動会や学習成果発表会では、生徒に主体的に運営に取り組ませている。	A	
	修学旅行や移動教室の宿泊行事では主体的に行事をつくるだけでなく、連帯意識も向上させる。	移動教室、修学旅行を行うことができ、自分の役割を責任をもって行うことで集団がつくられていくという意識が芽生えた。	B	
③	ボランティア活動を通して、ボランティアマインドの育成を図る。	生徒会役員が中心となって、荏原第六中学校のボランティア活動（ハートウォーミング六中）を継承している。	A	生徒会役員が行ってきたボランティア活動を、引き続き実施し、ボランティアマインドの育成に貢献している。
	「花いっぱい運動」「あいさつ運動」など、自治的活動に積極的に取り組ませる。	生徒たちがより良い学校生活を送ることを目的に、花いっぱい運動やあいさつ運動に積極的に参加している。	A	
	ハートウォーミング六中を計画的に行い、積極的にボランティア活動に参加させる。	「花いっぱい運動」「あいさつ運動」の活動を実施している。また、生徒会役員は、いろいろなイベントを通して、多くの生徒の参加を呼びかけている。	A	

A＝十分達成できた　B＝おおむね達成できた　C＝未達成